保護者の皆様へ

保育園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。一人ひとりのお子さんが一日快適に生活できるよう、感染症の集団発症や流行をできるだけ防いでいきたいと思っています。

お子さんの健康回復状態が集団での生活が可能な状態となってからの登園であるようご理解ご協力をお願いします。

※保護者記入

登 園 届

東桂保育園長 殿

クラス＿＿＿＿＿＿＿＿　児童名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

病名（該当疾患に☑）		出席停止期間および登園の目安
	インフルエンザ	発症した後５日経過し、かつ解熱した後３日経過していること
	新型コロナウイルス感染症	発症した後５日経過し、かつ症状軽快後１日を経過すること
	麻疹(はしか)	解熱後３日を経過していること
	風疹(３日ばしか)	発疹が消失していること
	水痘(みずぼうそう)	すべての発疹が痂皮(かさぶた)化していること
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから５日経過し、かつ全身状態が良好になっていること
	咽頭結膜熱(プール熱)	発熱、充血等の主な症状が消失した後２日経過していること
	流行性角結膜炎(はやり目)	結膜炎の症状が消失していること
	結核	医師により感染の恐れがないと認められていること
	百日咳	特有の咳が消失していること又は適正な抗菌性物質製剤による５日間の治療が終了していること
	腸管出血性大腸菌感染症(O157・O26・O111等)	医師により感染の恐れがないと認められていること ※
	急性出血性結膜炎	医師により感染の恐れがないと認められていること
	侵襲性髄膜炎菌感染症(髄膜炎菌感染症)	医師により感染の恐れがないと認められていること
		☚ その他の病名の場合に記入

※(無症状病原体保有者の場合トイレでの排泄習慣が確立している5歳以上の小児については出席停止の必要はなく、また5歳未満の子どもについては、2回以上連続で便から菌が検出されなければ登園可能)

年　　月　　日　医療機関＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　において上記疾患の診断を受けました。

症状が回復しましたので登園いたします。

年　　月　　日

保護者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※登園の際忘れずに提出をお願いします。

子どもが感染しやすい感染症

感染症名	主な症状と経過	感染しやすい期間	登園の目安
インフルエンザ	突然の高熱が3～4日続く。全身症状(倦怠感・関節痛・筋肉痛等)を伴う。喉の痛み・鼻水・咳。	症状がある期間(発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い)	発症した後5日経過し、かつ解熱した後3日経過していること
新型コロナウイルス感染症	発熱、体のだるさ、頭痛、のどの痛み、咳、鼻水、味覚や嗅覚の異常等。	発症後5日間	発症した後5日経過し、かつ症状軽快後1日を経過すること
麻疹 (はしか)	高熱・咳・鼻水・くしゃみ・目やにで始まりいったん熱が下がる頃口内にコプリック斑が出現。再び熱が上がると同時に発疹が耳後部から広がる。	発症1日前から発疹出現後の4日後まで	解熱後3日を経過していること
風疹 (3日ばしか)	はじめは軽い発熱。同時に細かい発疹が全身に出る。首、後頭部，耳後リンパ腺が腫れる。3～4日で発疹が消える。	発疹後の7日前から7日後くらい	発疹が消失していること
水痘 (みずぼうそう)	発熱(出ない場合もある)周りに赤みのある丘疹が、3～4日で次々に水疱になり 2～3日でかさぶたになる。かゆみが強い。	発疹出現1～2日前から痂皮(かさぶた)形成まで	すべての発疹が痂皮(かさぶた)化していること
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	発熱(出ない場合もある)耳の下が腫れる。口をあけたりたべたりすると痛む。乳児では感染していても症状が現れないことがある。	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日経過し、かつ全身状態が良好になっていること
咽頭結膜熱 (プール熱)	高熱、咽頭痛、目やに、目の充血(結膜炎)	発熱、充血等の症状が出現した数日間	発熱、充血等の主な症状が消失した後2日経過していること
流行性角結膜炎 (はやり目)	目がゴロゴロして痛痒い。目の充血、涙目、まぶたの腫れと痛み。	充血、目やに等の症状が出現した数日間	結膜炎の症状が消失していること
結核	慢性的な発熱、咳、疲れやすさ、食欲不振、顔色の悪さ。症状進行とともに呼吸困難、チアノーゼ等がみられる。	―	医師により感染の恐れがないと認められていること
百日咳	特有な咳(コンコンと咳込んだ後ヒューという笛を吹くような音をたてて息を吸うもの)が特徴。連続性・発作性の咳が長期に続く。	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失していること又は適正な抗菌性物質製剤による5日間の治療が終了していること
腸管出血性大腸菌感染症 (O157・O26・O111等)	激しい腹痛、下痢、血便、発熱は軽度	―	医師により感染の恐れがないと認められていること (無症状病原体保有者の場合トイレでの排泄習慣が確立している5歳以上の小児については出席停止の必要はなく、また、5歳未満の子どもについては、2回以上連続で便から菌が検出されなければ登園可能)
急性出血性結膜炎	急性結膜炎で結膜出血が特徴	―	医師により感染の恐れがないと認められていること
侵襲性髄膜炎菌感染症 (髄膜炎菌感染症)	発熱、頭痛、嘔吐があり急速に重症化する恐れがある。	―	医師により感染の恐れがないと認められていること
溶連菌感染症	突然の高熱、のどの痛み、しばしば嘔吐。発疹、イチゴ舌。熱が下がると皮膚が膜状に剥けてくる。	抗菌薬内服後24時間を経過するまで	抗菌薬内服後 24～48 時間を経過していること
手足口病	手・足・口腔内に水泡ができる。発熱は軽度。口内炎がひどく食事がとれないことがある。	唾液は1週間未満、便からは数週間ウイルスが排出される	発熱がなく普段の食事がとれること
伝染性紅斑 (りんご病)	両頬に蝶のような形の紅斑。頬に発疹の現れる7日～10日前に微熱・風邪様の症状が現れることが多い(感染力の強い時期)。発疹が現れる頃は感染しない。	風邪症状の時から発疹が出現するまで	全身症状が良くなっていること
伝染性膿痂疹 (とびひ)	虫刺され等を掻きこわして、細菌がつき、水泡、膿疱が破れ、新しい皮膚に広がる。	効果的治療開始後24時間まで	皮疹が乾燥し湿潤部位が覆える程度になっていること
突発性発疹	突然の高熱3～4日続き、熱が下がると同時に全身に発疹が出る。発熱のわりに期限が良いことがある。	感染力は弱いが発熱中は感染力がある	解熱後1日以上経過し全身状態が良くなっていること
感染性胃腸炎	嘔吐、下痢(乳幼児は白色調であることが多い)発熱	症状のある間	嘔吐・下痢・発熱症状が治まり普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	発熱、喉の痛み、口の中に赤い発疹。喉の痛みなどで食事、飲水が出来ないことがある。	唾液は1週間未満、便からは数週間ウイルスが排出される	発熱がなく普段の食事がとれること
RS ウイルス感染症	発熱、咳、鼻水などで発症し、多くは1週間程度で回復。1歳までにほとんどが初感染する。特に0歳児は入院が必要なほど重症化することがある。	3～8日(乳児は 3～4週間)	重篤な呼吸症状が消失し全身状態が良くなっていること
マイコプラズマ肺炎	風邪症状(高熱3～4日・咳)。咳が頑固に続く。発熱しない時もある。発疹、中耳炎を伴うこともある。	症状発現から 4～6週間	症状が改善し全身症状が良くなっていること
ヒトメタニューモウイルス感染症	咳・熱・鼻水が4日～1週間続き、だいたいは1週間程度で症状が治まる。 重症化すると気管支炎や肺炎になることがある。	発熱後 1～4日目に最も多い	解熱、咳等の症状が安定した後全身症状が良くなっていること

※感染しやすい時期を明確に提示できない感染症については（－）としています。